

2017年度 道路港湾インフラ委員会 活動方針



チェンナイ日本商工会

2016年度活動実績及び2017年度活動方針



〔2016年度活動実績〕

1. 道路・港湾インフラの改善に向けた州政府宛て建議書の作成
2. JWC (Joint Working Committee) に向けた州政府 Chief Secretary への資料の作成
3. JICA Study Team (国際臨海開発研究センター) とチェンナイ港オペレーション改善プロジェクトの協業

〔活動の主な成果〕

1. SH 5 7 と NH 4 5 との接続部分の拡幅工事の進捗
2. オラガダム、フライオーバー下の側道の拡張工事の進捗
3. 通関円滑化に向けた税関スタッフの増員の確認
4. カラマジヤール港における塗料付着問題の再発防止
5. カラマジヤール港外の高圧電線接触防止への対応
6. 道路整備の完工に至るスケジュールの確認

〔2017年度活動方針〕

次ページ以降の 2016 年度活動実績詳細資料に追記にて説明

1-1) 国道4号線と国道45号線を結ぶ州道57号線

- ・ <最優先課題> 国道4号線との接続部分、国道45号線との接続部分について、拡幅工事を早急に開始すること

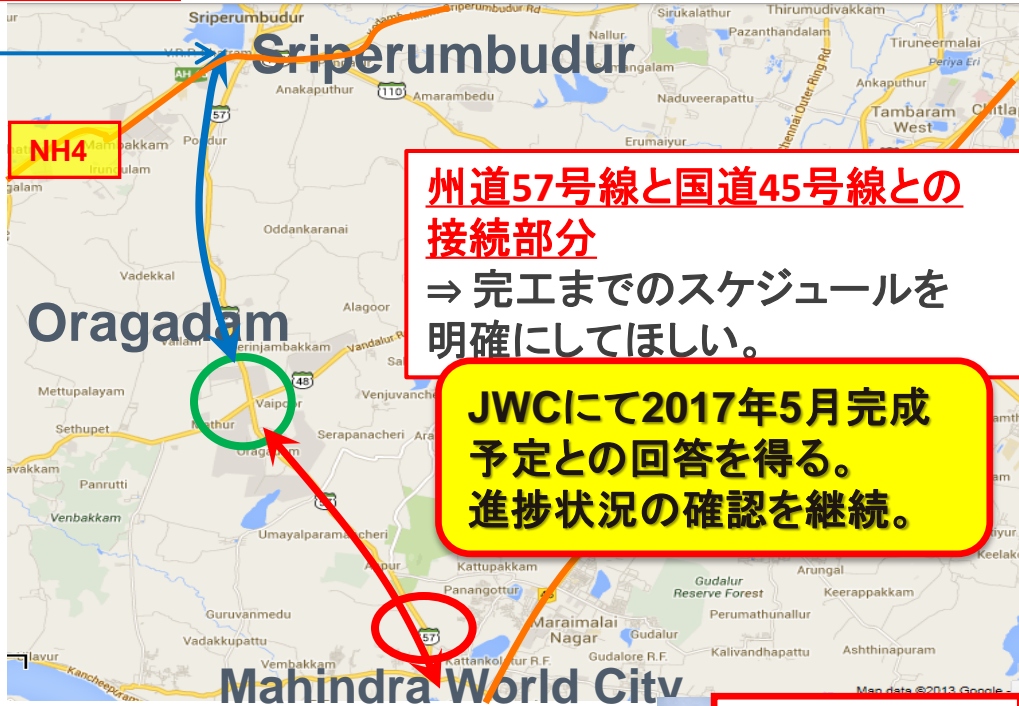


2017年6月現在

州道57号線と国道4号線との接続部分

⇒ 拡幅
⇒ 接続部分の確認

JWCにて2017年9、10月完成予定との回答を得る。進捗状況の確認を継続。



州道57号線と国道45号線との接続部分
⇒ 完工までのスケジュールを明確にしてほしい。

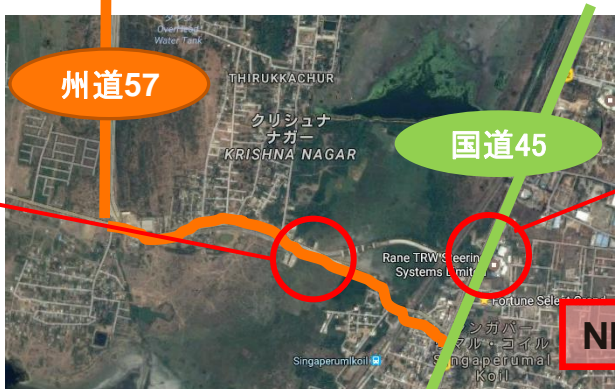
JWCにて2017年5月完成予定との回答を得る。進捗状況の確認を継続。



2017年6月現在

高架

NH45に接続する高架は既に完成しているが接続部分は工事中



2017年6月現在

NH45との接続は未着工

1-1) オラガダム交差点周辺道路

・ <最優先課題> フライオーバー下の側道および交差点の整備

2017年6月現在

道路幅拡張整備
実施済み。



2017年6月現在

道路幅拡張整備
実施済み。



↑ ↓
州道57号線

← 国道4号線

国

JWCにて2017年5月完成
予定との回答を得る。進捗
状況の確認を継続。

以前

2017年6月現在

カットされた
店舗軒先



2017年5月頃には道路の拡張
が行われ、トラックの離合が可能
となった。



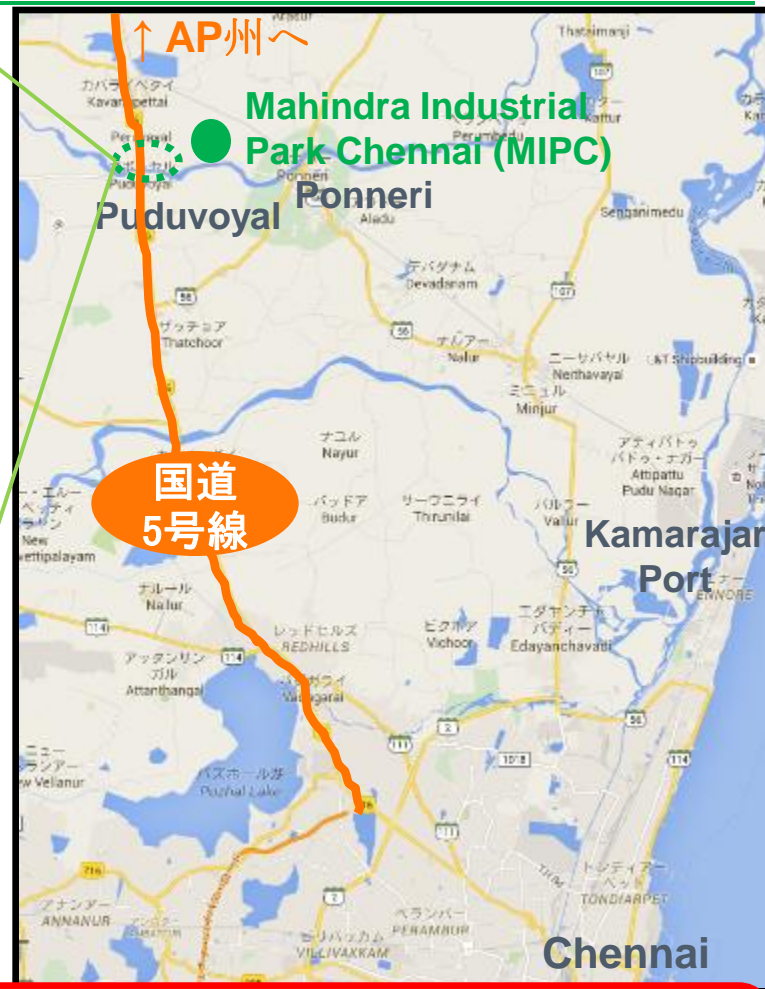
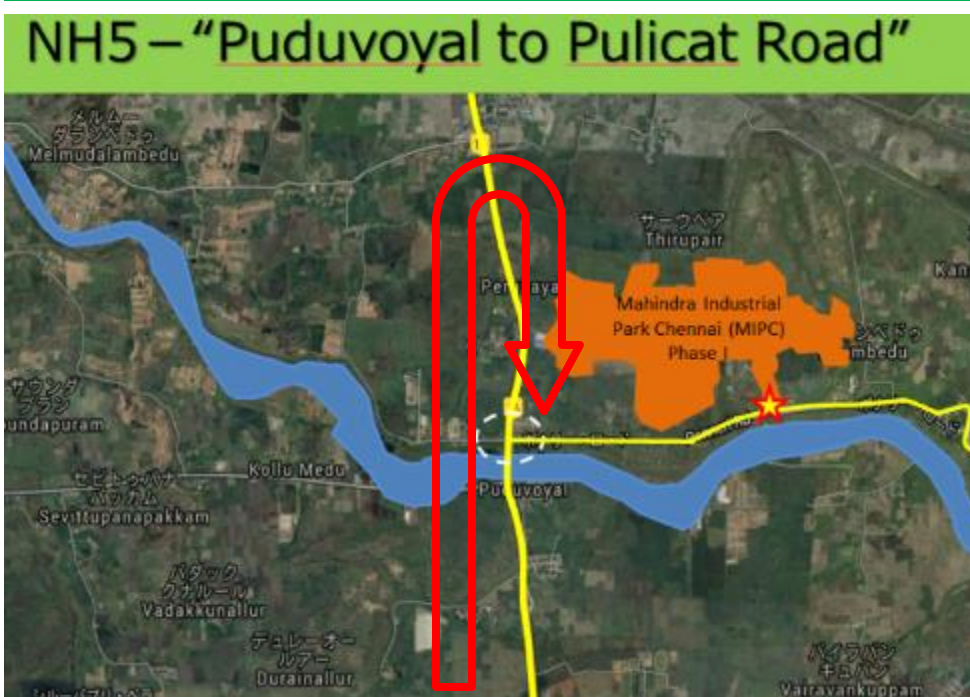
以前

2017年6月現在



約100m程、道路幅拡張の確保
が完了しておらず、JWCに
て2017年9月、もしくは10月完
了予定との回答を得る。進捗
状況の確認を継続。

1-2) 「マヒンドラ・インダストリアル・パーク・チェンナイ」等に繋がる国道5号線



- 国道5号線から北上してマヒンドラ・インダストリアル・パーク・チェンナイ(MIPC)に向かう際、国道5号線にある中央分離帯により、MIPC入口のある道路に直接右折できず、一度直進してUターンを余儀なくされている。今後、付近の渋滞を引き起こす虞があるため、以前州政府が約束した通り、2017年のうちに地下交差点を完成させてほしい。

改善の中身に拠り、所管がインド道路交通省(中央)と州政府に分かれることが判明。インド道路交通省に派遣されているJICAの日本人専門家の助言を求め、協議方法含め今後の取り進め方針を再策定することとする。

1-3) カマラジャール港ゲート前の踏切内にある架線、及び線路前にあるゲート状の構造物

- ・カマラジャール港ゲート前にある踏切に、架線ならびにゲート状構造物があるため、特に大型貨物を輸送する際、当該貨物を分解して通行する必要がある、輸送時の障害となっている。
- ・本件の対応策について、考えうる選択肢を以下3点提示するので実現可能性について検討してほしい。
 1. 架線不要のディーゼル列車を導入
 2. 当該通行路の部分だけ架線を除去(その部分は列車は惰性で走ることが可能)

- ・本問題については南部鉄道(Southern Railways)に伝えるも、現時点回答なし。
- ・これまで当路線は主にカマラジャールポートに輸入される石炭輸送に使用されていたが、同港内の新ターミナル(運営者Adani)の稼働開始(2017年7月予定)に伴い、コンテナ輸送にも利用されることから使用頻度が上がる模様。最新状況を整理し対応を検討する。



1-4) チェンナイ・ベンガルール産業回廊(CBIC)実現に向けた関連道路

- 環状道路の整備により、日系製造企業が集積する工業地帯と港湾とのコネクティビティが向上。

優先的に実施
するよう要望

Outer Ring Road (外環道路)

フェーズⅡ
(Nemilicheri-Minjur)
は84%は道路整備が
終了。2017年3月まで
に全線開通予定。

Peripheral Road (外周道路)

JICAとの交渉状況につ
いて、州財務省に確認
してフィードバックする。



対話会からの完工期日にお
いても工事が完了していな
いことから、継続要請案件と
してモニタリングを実施して
いく。

Northern Port Access Road (北部港湾接続道 路)

土地収用には約1年掛かる
見通し。土地収用が終わり
次第、道路整備に着手する。

州道57号線の整備

土地収用を2016年12月ま
でに終わらせ、拡幅工事は
2017年3月までに完工させ
る。

2-1) 港湾オペレーションの改善

(A) 税関手続の簡素化

問題点と要望

- 通関等に関するルール変更が頻繁に行われるが、ユーザーのみならず、税関職員もその内容を熟知していないケースあり。ルール変更された場合の説明会開催等、情報周知面の改善を要望。また、税関から税金支払に関し突然クレームを受け、通関がスタックするケースが散見。

- 通関システムが度々ダウンし、復旧までの間、貨物の通関がストップする

州政府との対話会において「税関当局から約300名のスタッフを増員すべくトレーニングを実施中」との回答がある。

JWCの席上においてもトレーニング継続中と同様の回答となる。

本件については継続要請案件としてモニタリングを実施していく。

州政府からの回答

- 現在、税関手続の約80%はオンライン化されている。2018年に完全ペーパーレス・システムを導入すべく準備中。
- システムダウンの頻発については、解決に向け対応を進めている。
- 約300人のスタッフを税関に配置し、手続の円滑化を図っているところ。
- 税関関係機関による月例会合に招待するので、ぜひ問題点を指摘してほしい。

(B) 外国人に対する入港規制の緩和

問題点と要望

- 日常的に港湾で業務を行っている者であっても、外国国籍者の場合、頻繁に港湾に入る必要があるにもかかわらず、毎回入港申請をしなければならない(インド国籍の港湾従事者は1年間のマルチエントリーパスを所持)。
- 港湾内の事業者に対しては、外国国籍者に対しても、最低1年程度有効なマルチ・エントリー・パスを発行してほしい。それが難しい場合には、申請の都度、即

本港湾内で常時勤務する必要のある日本人が帰任し、商工会メンバー会社に同様のニーズが無い事を確認した為、本件については要請案件から削除する。

州政府からの回答

- チェンナイ港湾公社(ChPT)は、モディ首相の掲げるEase of Doing Business Programに基づき、入国管理局(Immigration Dep.)に対し本問題をレイズしているところ。現在同局から回答待ちの状況。

(C) チェンナイ港 - Tiruvottiyur trailer parking yardの活用



- ・ 混雑解消のためにも、早期活用を期待。
- ・ 今後のスケジュールを確認したい。

JWCの席上において、税関当局の認可待ちの状況であることを確認した。
本件については継続要請案件としてモニタリングを実施していく。

Tiruvottiyur trailer parking yard



Tiruvottiyur

yardの利用につ
いて、中央倉庫公
社(CWC:
Central
Warehousing
Corporation)が
税関当局に許可
申請中。

2-1) 港湾オペレーションの改善

(D) チェンナイ港 – ゲート運用改善

問題点と要望

- チェンナイ港にある14のゲートのうち、使用されているのは2つのみ。周辺道路の狭さも相まって、慢性的な渋滞が発生。残りのゲートの一部を開放し、コンテナターミナル運営

JICA Study Teamの調査において以下の状況を確認した。

- ・州道114号線のトレーラー専用レーンにトレーラーが整列されている。
- ・入港ゲートにおいて入場車両をコントロールしている。
- ・渋滞の要因となっていたDPWゲート前が空いている。

港外のコンテナ積載トレーラーの渋滞台数は、2014年調査開始時の1日あたり平均550台から現在は平均220台と確実に減少している。

またチェンナイ港内においてもDPW/PSA共に空トレーラーの動線分離が実施されたことにより車両混在が解消。

これらのことから一定の効果を上げているとみなされるため、本案件については要請案件から削除する。

今後は、本年からRFIDシステムの運用開始したこともあり、ターミナル入退場の効率化、入港の手順の簡素化等、JICA Study Teamと協業してIT化に向けた提案を検討、実施していく。

解消を図っていきたい。

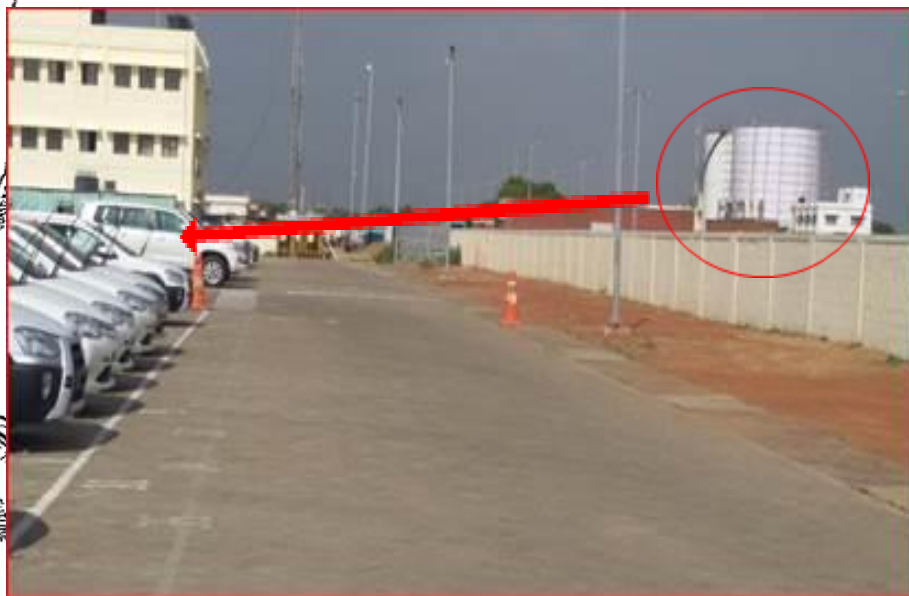
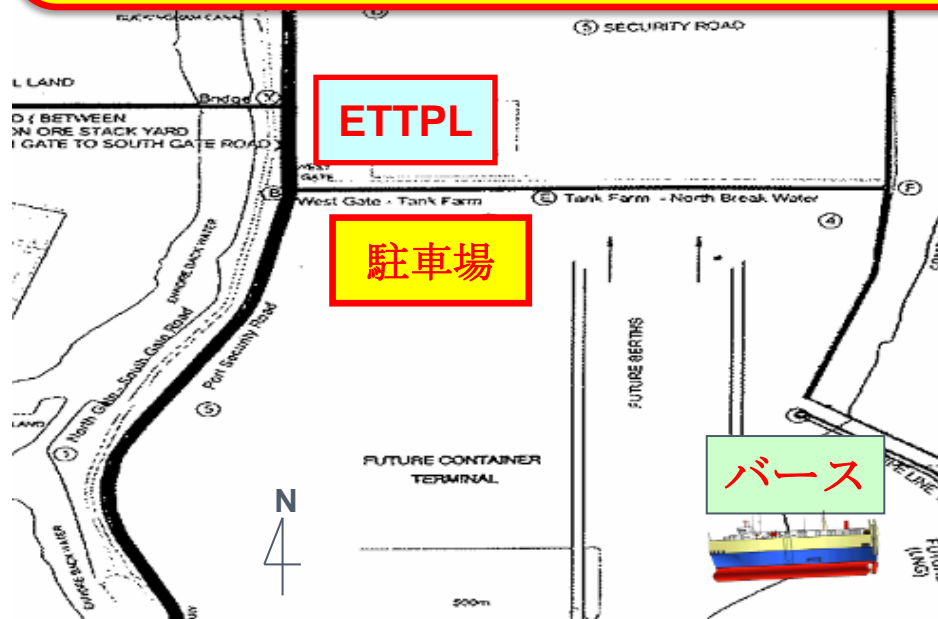


2-2) カマラジャー港のサービス改善

(A) 輸出向け車両への塗料付着問題

- ・16年3月11日、エンノール・タンク・ターミナル(ETTPL)で行われていた塗装作業に用いられていた塗料が、ETTPLに隣接する港内駐車場に保管中の輸出向け車両約8千台に付着。その結果、車両の移動・洗車を強いられ、荷役遅延・追加コストが発生した。

昨年3月の被害発生以来、継続的に州政府、及び同港に対し再発防止の徹底を要請。また現在、付近で建設中のLNGタンク及び関連施設についても同様の被害を発生させないように要請済み。カマラジャー港湾公社は再発防止策として、スプレー塗装を厳禁する通達を発表され、効果を上げているとみなされることから、本案件については要請案件から削除する。



(B) カマラジャール港外における高圧電線接触事故

- ・高圧電線接触事故現場を二輪車の駐車場へ転用したり、高架線下道路の端の一部エリアにコンクリート製の杭を打つ等、トレーラーが高架線下に入らないよう一定の対策が実施されている。
- ・JWCの席上で下記の説明があった。
「TNEBからカマラジャール港に対し地中埋設化のための工事費用見積り額(Rs.3.6 crore)の開示がある。
カトパリ港同様に費用負担を求める打ち合わせを行う。」
本件については継続要請案件としてモニタリングを実施していく。



る高圧電線にトレーラーが接
積載していた輸出向け日系
3日、16年6月9日にも発生

該高圧電線を地中に埋設
ムスケジュールを明確にし



(C) うねり問題

問題点と要望

- 「うねり」により、バースに停泊している船舶の動揺が大きくなり、船体への損傷が発生。船体動揺により、船舶は離岸を余儀なくされ、貨物荷役の遅延が引き

JWCの席上で、カマラジャール港から下記の回答があった。

「新しいバースの建設業者は既にL&T社に決めているが、州政府からの Non Objection Certificate が出されていない。これが出されれば環境森林省の認可まで1ヶ月はかからない。」
本件については継続要請案件としてモニタリングを実施していく。

港湾当局からの回答

- 環境省の認可はまだ得られていないが、約1年後にはバースを新設できる見込み。



「うねり」により損傷したバース

3-1) 洪水対策：日系企業の被害状況

<チェンナイ日本商工会 洪水被害状況緊急調査結果>

- ・ 調査期間：15年12月11日～16年1月11日
- ・ 調査対象：会員企業187社
- ・ 回答企業数：84社（回答率：44.9%）
- ・ 調査結果：（1）被害「有り」・・・36社
（2）被害合計金額・・・34億ルピー
※被害金額には、機会損失、物的被害、人的被害（ホテル一時避難等）が含まれる。



3-2) 洪水対策：洪水問題への対応に関する提案

- 豪雨・洪水対策の強化は、日本企業の当地進出ならびに投資拡大にとって重要なポイントであるとともに、TN州の政策目標の一つでもある外資誘致拡大を実現させるうえで必要不可欠。

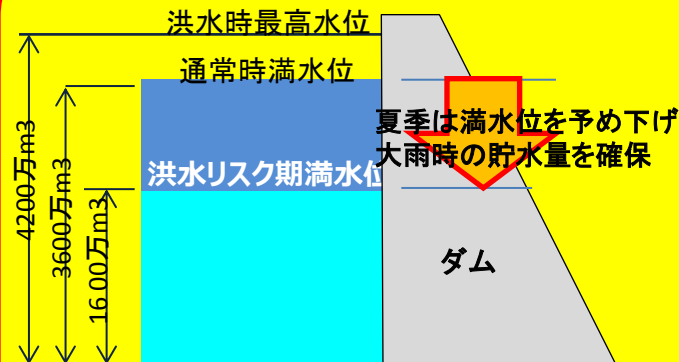
提案事項

- 河川・運河の浚渫による排水改善
- 河川・運河の流水経路の変更、ならびに、洪水の発生しやすい地域における堤防の建設
- 気象観測・予報システムを活用した貯水管理
- 洪水予防

州政府が

- (特にチ) 影響もな されてい の原因、 より洪水が発生したと考えている。

<日本のダムの洪水対策例>



*洪水リスク期: 6月16日-10月15日
※データは日吉ダムwebサイトより

- ◆ 日本では夏季にダムの満水位を予め下げ、大雨時の大量放水による下流の被害を防止。
 - ◆ 雨季以外の降水量が少ないインドでは、大雨が降らないと乾季に向けた貯水量不足を生じるため、同様の対策は困難。
- ⇒ JWCでの首席次官発言も踏まえ、高性能気象レーダーによる降水地域・量の正確な予測と事前放水による大雨時の貯水量確保による大量放水防止を再度、提言したい。